

学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに

万が一に備えて

校長 佐藤 信孝

泰平小学校の秋は、金木犀の香りで始まります。正門近くの金木犀が、毎日、児童を迎え、見送ります。また、自転車置き場の通路は金木犀の並木道です。小さいオレンジ色の花から香る甘く優しい香りに包まれることができます。

さて、9月には、水害時の避難の目安について、変更のご連絡をさせていただきました。9月11日付け「芝川氾濫等水害時の対応について（お知らせとお願い）」です。ポイントは、3つありました。

- 午前9時以降に、児童が学校にいる間に大雨警報（警戒レベル3）以上の警報が発令される見通しの場合には、休校を学校長の判断で検討すること。
- 児童が学校にいる間に、急遽、大雨警報（警戒レベル3）以上の警報が発令される見通しが出た場合には、大雨注意報（警戒レベル2）であっても、保護者への引き渡しを学校長の判断で検討すること。
- 芝川の堤防を越えて水があふれた場合には、水害時の避難場所に指定されている前谷公園への避難よりも優先して校舎の2階以上に避難して、水が引いてから保護者への引き渡しを行うこと。

芝川の氾濫等は、本地域の大きな課題の一つです。さいたま市で発生した今年8月21日のゲリラ豪雨では、芝川が越水し、正門前のマンホールからは50cmほどの水柱が立ちました。学校の周りも冠水のため、車での通行が困難となりました。大宮科学技術高校の辺りでは、車が水に浸かり動かなくなったそうです。その他にも泰平小学校の学区内では様々な危険な状況が生じていたことでしょう。千葉県豪雨も記憶に新しいですが、近年の気象状況の激しさ、特に暑さと豪雨は、命の危険すら感じます。

今年も、熊本地震や前出の千葉豪雨など、様々な災害が発生しています。日本全国、どこでも災害が発生する可能性があり、その発生する可能性は、以前より高まっていると感じます。防災への心構えとしては、①正確な情報を収集する、②避難経路と避難場所を確認しておく、③家族との連絡手段を決めておく、④非常持ち出し袋を用意する、⑤正しい行動を身に付ける、ことなどが挙げられています。しかし、一番は、「ここでも起こるかもしれない」という危機感を常にもっていることだと思います。

私は、海が見える町で育ちました。漁師だった私の祖父は、私が幼少の頃、私に「ここは、津波は来ない」と話していたことを覚えています。その祖父が86歳の人生を終えた25年後、私の町は津波に襲われました。東日本大震災の後、出身の町の歴史について検索したところ、江戸時代に大津波が来て2,000人以上の犠牲があった記録があるとの情報を得ました。約350年前の出来事、祖父の人生の中では「津波が来ないこと」は正解でした。しかし、その町で住む人々の備えとしては不十分と言えるでしょう。

泰平小学校では、この夏休みに、教職員全員で、防災設備業者の協力のもと、3階と4階に設置された非常用避難はしごの使い方について研修しました。私の記憶では、小学生が避難はしごを使って校舎から避難したという記憶はありません。しかし、6月に起きた東京都北区の小学校火災があったように、私の記憶は、これを使わない保証にはなりません。

大雨の避難対応については、予報ほどの被害や気象状況に至らなかった、いわゆる“空振り”も多くあります。また、休校や児童の引き渡しは、保護者の皆様にはご負担をおかけすることになりますが、万が一に備え、児童の安全とより現実的な対応を考えての変更となります。

ご理解とご協力をお願い申し上げます。